

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	言語文化	3	1	総合探究科

使用教科書	副教材等
言語文化（数研出版）	解析古典文法三訂版（桐原書店） 新明説漢文（尚文出版） 正しく読み・解くための力をつける言語文化（数研出版）

科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをひろげたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能が身に付き、我が国の言語文化に対して深く理解している。
②思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が身につけられており、他者との関わりの中で自分の思いや考えを伝え合うことができる。
③主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

評価方法

- ①定期テスト・小テスト・発言・授業振り返りシート（自己評価）
 ②定期テスト・発言・グループ活動・作文・スピーチ・成果物
 ③発言・グループ活動・作文・スピーチ・成果物・授業振り返りシート（自己評価）

学習計画

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材などの内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	古文に親しむ	宇治拾遺物語「児のそら寝」	・ 古文学習の基本を身につけ、学習への意欲を高めている。 ・ 歴史的仮名遣いや品詞など、基礎知識を身につけている。	○	○	○
	漢文に親しむ	漢文入門一、二	・ 漢文を学習する意義を知り、今後の学習に意欲を持っている。 ・ 漢文の構造や、訓読のきまりを理解し、身につけている。	○	○	○
5	現代に通じるものの見方	徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」	・ 古語辞典の使い方に慣れ、動詞の活用の基礎を身につけている。 ・ 現代にも通じるものの考え方に関心を持っている。	○	○	○
	名作を味わう	近代小説「羅生門」	・ 下人の行動と心理の変化を物語の展開に即して読み取っている。 ・ 下人のその後について文章にまとめ、互いの作品を鑑賞しあっている。	○	○	○
6	名作を味わう	近代小説「羅生門」	・ 下人の行動と心理の変化を物語の展開に即して読み取っている。 ・ 下人のその後について文章にまとめ、互いの作品を鑑賞しあっている。	○	○	○

7	音読に慣れる	故事「漁夫之利」	・ 漢文訓読の基本事項を身につけ、正しい書き下し文にできている。 ・ 漢文の音読に慣れ、音読を楽しんでいる。	○	○	○
9	歌物語を味わう	伊勢物語「芥川」	・ 動詞の活用について理解を深めた上で、読み味わっている。 ・ 「伊勢物語」の他の話の内容について調べ、発表している。	○	○	○
	故事成語に親しむ	故事「狐借虎威」	・ 否定形や使役形など句法を理解して、口語訳できている。 ・ 故事成語に興味を持ち、調べたことを発表している。	○	○	○
10	最古の物語を読む	竹取物語「なよ竹のかぐや姫」	・ かぐや姫や翁がどんな人物として描かれているかを読み取っている。 ・ 用言についての理解を深めている。	○	○	○
11	漢詩に親しむ	漢詩「静夜思」「送元二使安西」「登高」他	・ 漢詩の規則を理解し、作者の心情や主題について話し合っている。 ・ 「紅のうつろい」を参考に日本文化と中国文化を比較している。	○	○	○
12	日記を味わう	土佐日記「門出」「帰京」	・ 諧謔表現や亡児追憶の心情を読み取っている。 ・ 月の異名や時刻を調べ、現代にその名残がある例を探している。	○	○	○
1	作品を比較する	近代小説「山月記」	・ 李徴が虎になった理由について考え、話し合っている。 ・ 「人虎伝」との比べ読みをし、異なる点を見つけている。		○	○
2	作品を比較する	近代小説「山月記」	・ 李徴が虎になった理由について考え、話し合っている。 ・ 「人虎伝」との比べ読みをし、異なる点を見つけている。		○	○
3						